

印務公使館

雪宮政務司

伊爾薩將軍擴張之實效

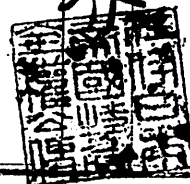
今春伊國政府ハ通常議會ニ陸海軍擴張案ヲ提出シテ其協賛ヲ求メタルニ議會多數ノ意向ハ固ヨリ擴張ニ對シテ自來ノ必要上軍備擴張ノ已ム可カラサルヲ認ルモ是迄未陸海軍部内ニ轉延セシ情弊ト殊ニ陸軍部内ニ於ルハ賄其他ノ不正アリテ奇貨トシ政府及國民ハ激烈ニ政府ヲ攻撃シ爲ニ大軍備擴張案ヲ削減、歸セトスル形勢ナリしが海軍大臣ミラバル少將ハ誠意袒護深慮以テ政府案ヲ弁護せん結果議會ハ曰方臣ノ真摯ヲ諒シヤリ、海軍擴張案ハ少許ノ修正ヲ經テ通過シ陸軍擴張案ニ對シテ議會ノ攻撃由リ案ニ對シタル其烈ク殊ニ陸軍大臣ミラバル少將ノ人的攻撃

大志を敷き、たゞも思慮に及り、幸ふて政府要務の
 結果は衆小軍思ひ、廿六兩擴張、其る法中、要
 領其必要ト認ル矣ヲ別々、操演報告中、近頃
 本件、國レ附記報道ス、伊田内、於ル近來ノ軍備
 又列強邦ニ有之、社会党員ハ盛シ、其方針ヲ利用シ
 且、軍需ヲ補助ナリ、軍備又列強ヲ鼓吹シ、軍隊兵士
 間ニ陰謀、小冊子ヲ配布シ、非軍備主義ヲ慫慂セシ
 加害ニ、百方其手段ヲ講スルヨリ、政府ハ泣主我ノ一威
 實情聞タ、アバゲイト称ス、特許中、右置刻、九龍
 アヒ号、攻撃賣ヲ禁止シ、又左黨ハノ集會ニ、列ビテ、
 嚴密ニ之カ取締ヲナレツアリ、要スルハ、巴重
 ニ、於ルヨウ、等ノ社会党、瓜ノ非武備ニ我ト相呼
 応シ、以テ軍需的、非軍備ニ我ヲ擴張セルトスル者、如ク

改府ハ之ニ刻瓦盤ニ戒ヲ忌ラサル状況ニ有之候
右此告申仕テ
明暦三十八年十月十六日
右具

在律

特命全權公使大山久



臨外務大臣伯骨桂太介殿

在尹國

日本是常

[illegible]

一九五二年七月一日 伊甫其軍擴張誌

第一章 本會計年度より一九二〇會計年度に亘る伊東
市軍需經費全体的豫算左の如し

九〇五
合計等は
一三五、〇〇〇、〇〇〇
リノラ

九〇六
二六〇〇〇〇〇三

九〇七
3

九
ハ
三

三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

以上ノ費用ハ、海軍士及水兵等ノ年金及養船ニ列スル
船由補助金ヲ包含ス（中略）

第^二条 第^一条ニ掲ケル合計年以内ニ於^ル費中
 次^ニ掲ケル金額ハ特別合計トシテ軍艦差^ハ軍艦
 用材料ノ提供^ス及^ビ購買ニ充^テ当ス

既不知使舍

125
○○○○
○○○○
りり

3
0
0
0
0
0
3

1100.000

王盛及王月公

及難買之ヲ充ツ

石塘將移申江

二水靈苑永船一隻

三 鑿水公事殿七隻

四、公由廣水乘船於五月

五
ス
ニ
角丸水雷制れ生
坊

六集飛水演、針鑄用重

以下略

在佛國

西本公使館

一行軍用者之器具 及徵收宿舎賒償費并諸運搬費

五一四、八〇〇リ

一砲兵工廠費并材料費

五五、〇〇〇リ

計一、〇〇〇、〇〇〇リ

以上

[illegible]

上
冬
月
美
新
收
女
安
家



Rome, Dec. 19 1905 5-35 p.m.
Recd., " 20 " 9- a.m.

No. 57. Modus vivendi newly concluded with Spain,
in connection with importation of Spanish wine, being
rejected by the Lower House, Italian Cabinet resigned
Dec. 18th.

Ohyama.

大臣 加藤 三十八 九
次官 加藤 三十八 九
人事 加藤 三十八 九
通商 加藤 三十八 九
政務 加藤 三十八 九
會計 加藤 三十八 九
取調 加藤 三十八 九

一月一日伊國總理大臣アラキヲ下院ニ於テ
演説セル新内閣ノ政綱ニ對シ投票ノ結果三三
少數ニテ政府ノ敗ニ歸セシタノ翌二日閣員一同
辞表ヲ呈セリ

加藤大臣
大山公使

羅馬發 三十九年二月 三日 十四時
東京着 四日 前九時一五

大臣 加藤 三十八 九
次官 加藤 三十八 九
人事 加藤 三十八 九
通商 加藤 三十八 九
政務 加藤 三十八 九
會計 加藤 三十八 九
取調 加藤 三十八 九

No. 5496
51 wds.
Rome, Dec. 25 1905 5 p.m.
Recd., " 26 " 7-55 a.m.

Katsura,
Tokyo.

No. 58. Italian Ministerial crisis was solved Dec. 24th by a partial reconstruction of Cabinet, having Mr. Fortes again as Premier and Minister of the Interior, Minister of Agriculture and Commerce ad interim; Rear-Admiral Mirabello Minister of Navy. The following are principal newly appointed:

Minister for Foreign Affairs Sargiu-Liaono, Minister for Finance Vacchelli, Minister of War Lieut-General Majnoni d'Intignano.

Ohyema.

9/1

公第...
伊田...
現...
ト...
中...
歩...
輸...
ケ...
一...
由...
由...

三月九日

警察

21

印

廿九年二月廿八日

略子保方、海濱、電文、珠、多、前、の、地、ナ、ス、

大臣 次官
政務 通商 人事 會計 取調
No. 440
38 wds.
Rome, Feb. 9 1906 6- p.m.
Recd., " 10 " 8-35 a.m.

Gaimudaijin,
Tokyo.

No. 5. Italian new Cabinet formed Feb. 8th and the following are principal new members :-

Prime Minister and Minister of the Interior Baron Sonnino, Minister for Foreign Affairs Count Guicciardini, Minister of Treasury Luzzatti. Minister for War and Minister of the Navy remain same as in the former Ministry.

Ohyama.

要

ハ尤至シメタル者ト議院、於テモ盛ニ政府ヲ攻撃シ
六月十三日ヨリ六日間、且ル付海ノ結果終ニ多ク以
テ右海軍政府ノ閣員ハ政府ノ措置ヲ不慮スルに至リ
右海軍中政府例ノ毎明セル處ニヨリハ、伊田政府ハ
最初西園政府ヲ提議、係ル葡萄酒輸入ノ関稅便重
ヲ減スルヲ百方拒絶セルモ、斯クテハ西園政府ハ我主
張ヲ強ク拒絶、結果國内戦争ノ起ルハナキナリニシテ
以テ不逞已モ、モリス、ヴィンヂーニシテ締結セル次第ナルモ
其之ミヨリテ伊田政府葡萄酒ノ販賣ニ知シ何等ノ妨
害ヲ與ヘザルハ政府ノ信スル要ナリトテ經濟上
綴出タル証明ヲナシ、且差シ太モリス、ヴィンヂーノ結果
ニテ伊田政府ハ妨害ヲ與フルヲ要スルハ右条約ノ明
文ニヨリ六ヶ月前ノ豫告ヲ以テ之ヲ廢棄スル得ルヲ以テ

右条約ヲ目シ伊田政府ハ之ヲ大ノ損害ヲ與ル者ト認
ムルヲ得バトナレ、且政府ハ右条約締結ニ関シテノ責任
連帶ノ責任ヲ以テ之ヲ負セシメ、若シテ之ヲ負スル責
アリトモハ、二當局大臣ノ之ヲ責ミ任スルヲ得バトナレ、
然レモ、茲ニ於テ又劉覺ハモリス、ヴィンヂーニシテ不慮投票
ト政府不信任投票トヲ曰一視シ、何故ニ投票ヲ試ミシト
セルモ政府党依然議會ニ多ク、且タル結果、六月十八日ノ
議人ハ、於テ以テ西園政府ヲ別視シ、先ツ後者、劉ニ投票
ヲ試ミタル、百九十五票、劉スル二百五十二票、(棄権二票)
ノ多ク、以テ政府全体ノ結果ヲ見、恐レシ結果、モリス、
ヴィンヂーノ不慮投票ハ、百三十五票、劉スル二百九十三
票、(棄権一票)ヲ以テ、右条約締結ノ関スル政府ノ措置
ヲ強ク、不慮セル、ヨリ總理大臣ヲ始メ閣員ハ、翌日、其

イタリヤ

印 本 公 使 館

ラオリテ辞表ヲ呈せり。又陸海軍ノ同シテハ前總理ガラリツデー
氏カ鐵道問題ノ一般者ヲ生ケザルハ新ニテハ閣下
辭スルノ意ヲ成シタルヲ以テ勅命一申ビタルガ氏ニ下リ
新カ閣下更ニ生スル旨ヲ以テ終ニ當局責任者タル外務
農商務大臣ノニ大臣及ビ臣等共々望ミ失ヒタル陸
軍大臣引退シ本月二十日付カ閣下左ノ人負ラハテ
組織セラル

總理大臣 兼 内務大臣 及 海軍大臣 兼 農商務大臣

Foris

外務大臣 候補 アントニオ サジリアノ

machoe Antonio San Giuliano

司法大臣 カルロ マトキヨロ アペリー

Camillo Finocchiaro-Aprile

大藏大臣

ジョエト バンツァー

Pietro Tacchelli

金庫大臣

パトリオ カタノ

Paolo Carcano

陸軍大臣

陸軍大將 ビンチー ジンダグナノ

Tenente generale Luigi majorani

d'Intignano

海軍大臣

カミッロ ミンピロ

Conte ammiraglio mirabello.

文部大臣

エリッハ ビー トリス

Enrico de Marinis

工部大臣

フランチェスコ テデスコ

francesco Tedesco

在 伊 國

日 本 公 使 館

庫信大臣 イグナチヨ マルセゴ バスチア
 Ignacio Maestengo - Bastia
 越テ二十有アルカス氏ノ農務工務大臣ノ兼任ヲ解
 キ伯爵 マルヴェジトマジェー (Comte Malvezzi de
 Malvezzi) 之ニ新任セシメリ
 前外務大臣ケトリ氏ノ引退ニ因リテハ氏ガ伊佛利
 近ヲ持續セルノ故ヲ以テ佛蘭西政界ニ於テハ一般ニ之ヲ
 惜ムト付、氏ノ故腕ト國王ノ信任トハ相待テアル
 ケス前中内ノ重鎮ナリシラスアルカス氏ガ新カ
 國政務ニ付テモ及バ可クハ氏ノ留任ヲ希望シタルモ
 氏ハ自付、多クノ政敵ヲ有シ現ニ下院議長ニシテハ
 如キケトリ氏ニシテ依然現職ニ留マランハ自己ハ議長
 ノ職ヲ辞スベシトノ明白的意見ヲ申シタル形勢ナリシヲ

以テアルカス氏モ度ヲ擇テ馬鹿ヲ斬ルベク可ナ
 ル、至リタ者如シ
 後任外務大臣ハ夏年一ペルカ内閣ニ属信大臣ナリ
 今況ニ貴族院議員ニシテ市ニ外交問題ニ主視シ
 特ニ近東問題及埃及問題ノ如キハ其尤モ精細ナル
 注意ヲ拂ヒシ処ニ係ル氏當テアルカス氏ノ問題ニ付テ自
 説ヲ公布シシ地ヲ早晚伊佛利勢カ軌周由、至リク必要
 ヲ主張セシ事アリ若シ氏ノ所説ニシテ依然変更ナラン
 ハ今度伊佛利ノ経路ハ一層ノ新棘ヲ見ルベクハ氏ノ極
 東問題殊ニ如キハ其尤モ精細ナル注意ヲ拂ヒシ処ニ係
 中其常ニ如キハ其尤モ精細ナル注意ヲ拂ヒシ処ニ係
 本邦ノ關係ハ何等ノ困難ヲ見サルベシ只氏ハ市ニ日本
 ノ以テ歐州ニ其工業ノ一大強敵ナリト主張セル者今

四ノ戦争ヲ事竟ルガ人民生殖過多ノ結果其地
 延民地若見ノ必要ニ逼ルニ起因スト持論ハ漢
 福論者ト其論旨ノ梗概ヲ一ニスル者アリ今氏
 氏近シテ其思考ヲ探知致スル所ニベシ
 要スル今由伸由由多ク其更ハ前ホモルル終々
 一糸約締結ニ起因シ既而諸強國モ頗ル奇異
 ニ感じタハ其由伸由伸ノ論調ニヨリテモ之ヲ徴スルニ足
 ルハ伊由伸由伸紙モ又其意外ノ結果ニ到リ極度
 之ヲ著ルル如ク新送由由伸ノ水鏡ハ蓋シ疑問ニ在リ其
 本及非生ニ其
 明治三十八年十二月二十日
 松具

在伸
 特命全權公使 大山 綱



外務大臣東郷平八郎

在伊國

國朝公儀

公茅按

伊田内閣更生
ニ関スル報告書
二件

本月一日付電第四号及同九日付電第五号ヲ以テ報告申進 其重伊重ヲルカ内閣ハ辭表ヲ呈シ同月八日ヨリテ重實協理ノ下ニ新内

憲事十二月十七日ヲ以テ一部改定シ遂ケル伊
 フタル久々ハ本年一月二十九日新内閣成立後
 ノ最始ノ議會ニ於テ整理フル久氏自ラ其執ル
 処ノ政綱ヲ陳述シタルニ及利仙ノ首領ソシ氏ヲ始メ
 左党全体一致シテ政府ニ及利仙論ヲ攻撃三日ニ亘
 リ終ニ年月百投票ノ結果百八十八票ニ及スルニ
 二十票即三十三票ノ多數ヲ以テ政府ニ及スル不信

詔ヲ表ルルニヨリフタル内閣ハ終ニ七月二日辭
表ヲ捧呈スルノセヨ得ザルに至リ
客年十二月二十日公第六十三号ヲ以テ報告セル如ク
同月十七日伊田内閣カ内閣府ト西肥牙政府ト向
ニ締結セルモリスヴィンセント島ヲ不認スルト同時ニ
政府ノ執ル政綱ニ列シ投票ノ結果大ニ數ヲ以テ
其全体ノ政策ヲ是認シタルニ拘ラズ其多ク日ヲ經ル
僅ニヶ月有餘而モフルル氏カ今内閣會ニ於テ
發表セル政綱ハ客年十二月内閣一新改定後
改定ニ於ル際速ニ之ヲ遂行スルヲ見ザルニ議
會ガ前ハ之ヲ是認シ後ハ之ヲ不認セルカ如キハ
局外者ノ觀テ以テ尤モ奇異トモ思ハレリ
身ニ於テ裁微ニ周シ要求シテ白ク

新内閣ハ累々ニ議會ニ發表セル政綱ヲ
持續セルヲ以テ今特ニ新ニ之ヲ布新スル
要ナキモ茲ニ一層精確ニ其政綱ヲ要求シ
以テ及列仙ガ政府ニ列スル遺憾ノ一層鮮明
ナラカスメ之カ三省ヲ促カスハ蓋シ不
非ザルベシ
ト前提ノ下ニ述バテ白ク
内政ニ對シテハ我々内閣ハ一由全體ノ平和ヲ保持
スルニ最大必要ナル自由主義ヲ標榜シ且
之ヲ持續セルハ諸君ノ認ムル処ナルシ外交ニ
對シテハ主義一貫常ニ改換軍備ヲ外ニ起
然タラシメテ即聯盟國ニ對シテハ忠實ニ友
邦ニ對シテハ親睦ヲ圖ルニ外ナラズ如ク我

ヲ留任セシメタルカ如キハ中國破綻ノ最近因ラ失レル
者ト言ハサルヲ得ズ抑伊由ニ於テハ鐵道借款經營者
肉體ハ先ニダリツキ氏引長ノ因ラ失レル者以テ
其經營上非常困難アルヲ見ル足ル然ルニテテス
氏ハ昔チダリツキ氏内閣ニ工部大臣トシテ鐵道入
社ト交渉裁置ク失レ終ニ引長辭職セル者、カレ
氏ニ至ツテモ、モリスヴィヅエニ引長ノ件ヲ自ラ主要ナル
責任者タルノミナラテテスニ氏トハ其交還大田骨ヲ
欠ラト称スル、然レキ不信任思且不統一ノ内閣ヲ以テ
其政綱ヲ實施シ、適用セトスルニ當リ、議合ノ不信任
任ヲ拒メハ蓋シ自然ノ結果タルヲ以テ、テテスニ氏
ガ鐵道借款問題ニ關シ、議合ニ説明セトスルヤ、喧嘩
局終、女帝求フ中止セルカキ以テ、議合ガ女内閣ニ

不信任ヲ表セル露威ヲ端視スル足ル
獨リ外務大臣サシヅク候ニ至テハ、就任ノ當
際、各閣ノ感觸稍々明白カラサレシモ、抑ラ不
時、至リ各閣共ニ其外交交渉タル手懸ヲ認識シ
独逸ニ新道ヲ開キ、各閣何レモ其望任ヲ希
望シ、伊由ノ政府及リ、竟ニ亦曰氏ノミ、アリシハ、抗擊
的態度ヲ採ラズ、氏ノ足末ニシテ、其望任ヲ希
望スル、俄然、フタルカ、内閣ニ入ラシ、ハ、外相
持子ハ、確然、氏ニ、其末ルハ、キ者ナシ、モ、其然ラ
セム、カ、ラ、サレ、至リタルハ、政界、諸君、大痛悼スル、処
タリ、氏ハ、在、露、中、一、處、理、シ、タ、ル、大、難、事、ナ、ル、件、ハ、
アル、セ、リ、ス、ハ、誠、ニ、其、結、核、腕、ニ、シ、テ、露、内、政、界、ニ、全、望、
アル、ヅ、イ、ス、ニ、ト、ヅ、エ、ノ、ス、タ、候、リ、ハ、露、セ、ル、一、ア、ナ、リ、ト、ス、

在 伊 國

日 本 外 務 省

在伊國

日本公使館

ヲ見サレベシト陰謀ト云ル
今左、新外相が一九〇二年五月二十日議會ニ於テ
述ヘタル外交演説ノ大要ヲ淺ク録シ、ヨリ参考ニ
爲メ掲記セシ

三國同盟ノ必要ハ、過去數年前、比シ大ニ其趨向ヲ異
ニス。是レ實ニ、エーロ伯が本年一月七日永ヘタル所
ニシテ其論旨ハ、之ヲ我伊國ニ適用シ更ニ適切ニ認ム
左ニトモ之ト同時ニ三國同盟ハ、國際的必要ニ當テ形成
サレタル事ヲ忘ル可ラズ。此同盟ハ、寧テ二國同盟
ノ成ミヲ促カシ、此二國同盟ニ範リ茲ニ日英同盟
ヲ生ジタリ以上三國同盟ノ周圍ニ集ムル者即
バルカ内題ヲ爲スル英露ノ協行ノ及地中海ノ
權力平衡ヲ爲スル伊佛ノ調和是也。此等ノ同盟

調和

及同盟ニヨリ茲ニ歐洲ノ平和保障セラル。左ハ一
田政府ニシテ、意切ナル理由ナクシテ前記同盟ノ一ヲ
他ノ同盟ニ轉スルカ如キハ其結果ノ極メテ重大ナ
ルハナリヲ記憶セラル可キ
諸君アリ伊國及外國ニ於テ説ヲナシテ曰ク地中海及
バルカ半島西部ニ於ル伊國ノ利益ハ之ヲ三國同
盟ニ倚リテ支持スルモノ寧テ口佛露ニ倚ル
親交ニヨリテ一層擴張セラルベシト
予ハ如上ノ論旨ニ首肯スルヲ得ズ。從來予ノ持
論ニシテ旦沢時ニ、英露ノ破綻スル處ハ英伊
ノ親交ハ地中海權力平衡ノ必要條件タルヲ曰
時、バルカ半島ノ利益保持ハ據伊ノ親交ト
相傳突セタル事是ナリ。若夫レ地中海ノ利

在伊國

日本公使館

右伊田ハ友邦多クバ故由多クバト思恩ハ大
 誤謬多ク今更アルガミニ於ル珍議ハ伊
 田中チ式ニ訂スルヲモ寧ノ友邦トシテ擧
 内ニ折衝調停ノ余地アルヲ信ス
 予ノ所信ノ如ク三田口盟ハ田陸的ニ必要ト形成
 セラタリトセバ亦之ヲ保持スルノ價値アルハ論ヲ待
 タズ而シテ田陸口盟ナル者ハ社稷ニ於ル自他
 制度ト均ク時勢ノ要遷ニ為ルセシメ且歴史
 ノ要求ト相調和セシムルヲ要ス見ヨ三田口盟ノ形
 成セシムル時代ト尺時トハ大ニ社会ノ趨勢カヲ要ス
 今ヤ過去ニ於テ豫期セザリ新ノ情形成セシム
 ル状ヤ是ニ實ニ伊田ノ親交ヲ求せん所
 以ナリトス

伊田ノ親交ハケニ其問題ニ付ルガミ氏 (Rudine)
 之ヲ首唱シパル氏 (Pollux) ハ之ヲ伊田通商条
 約ノ締結ニヨリテ進捗セシメ更ニプリツター氏
 (Pruitt) ノ敏腕ニヨリテ完成セシメり伊田
 々民が其親交ヲ歡迎スル所以ノ若他ナシ其親
 交ハ独リ伊田ノ利益ニ投合スル而セシメ又實ニ伊
 田ノ利益ニ投合スル而セシメ更ニ伊田民ノ感
 情ニ投合シタルナリ歴史上ノ要遷ニ時代ノ經
 過及為政者ノ失政ニ拘ルヲ予輩ハ今更ニ
 マゼン (Magen) 及シテプリツター (Pruitt) 子件
 ヲ忘却スル能ハズ
 更ニトナリ内題ニ論及シテ曰ク
 予輩ハトナリテ於此現状維持ヲ敬重シ且之ヲ

維持スルヲ努メサル可キ是ノ實ニ平和ノ希望
 全約ノ遵守及最後ニ自由ノ利益等ヲ胚胎
 且計算スル希望ニ外ナク要スル、グレースコート
 ヲエスル候及アリオリ氏ノ採ル所ノ外交政策ハ即
 トリオリ、然ル所ノ維持ハ之ヲ地中由力平衡ノ
 矣ヲ見ルモ將又自由ノ政治的利益ヲ考フルモ
 是ノ変化ヲ許サズ、然ル所ノ外交の狀態ハトリ
 ガリ、イ東亞ノ境即チ伊美佛トノ關係ニ於テ
 特ニ之ヲ維持スルヲ要スルニ
 之ヲ要スル、然ル所ノ方針、於テ前々如ク其
 毎國ヲミテハ、然ル所ノ強ノ尤ニ歡迎スル所、以
 ミレテ、然ル所ノ強ノ尤ニ歡迎スル所、以
 由新紙ニ至ツテハ、然ル所ノ強ノ尤ニ歡迎スル所、以

ル所ノ強ノ尤ニ歡迎スル所、以
 因テ、然ル所ノ強ノ尤ニ歡迎スル所、以
 太及然ル所ノ強ノ尤ニ歡迎スル所、以
 明治三十九年二月十三日
 其具

主伊
 特命全權公使 大山 綱良
 外務大臣 加藤高明 殿

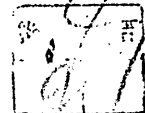


大山金權公使

要目付

李都

上
知
心
之



私

大
中
外

次
長
部

明治三十九年七月十二日

外務大臣

右大臣

大蔵

ガロ

外務大臣

右大臣

テットーニ

Giulio

内閣総理大臣

外務大臣

右大臣

大蔵

ガロ

テットーニ

Giulio

内閣総理大臣

外務大臣

右大臣

大蔵

ガロ

テットーニ

Giulio

内閣総理大臣

外務大臣

右大臣

大蔵

ガロ

テットーニ

Giulio

内閣総理大臣

外務大臣

右大臣

大蔵

ガロ

テットーニ

明治三十九年七月十二日

管 政務局

公
第
四
拾
七
号

伊
國
外
内
閣
組
織
件

一三二七一編

大臣
次官
政務
通商
人事
會計
取調

Handwritten signature and stamp.

No. 1689.

Roma, May 30, 1906, 4:15 p.m.

Rec'd, June 1, 1906, 8:55 a.m.

Hayashi,

Tokio.

No. 18.

Italian new cabinet has been formed
May 30th under the Presidency of Giolitti.
Minister for Foreign Affairs Tittoni.

Ohyama.

上
各
四
二
一

大藏大臣	大黨	マツシマ	Maximilien
金庫大臣	〃	マヨラナ	Majorana
陸軍大臣		ヴァカン中時	Vigano
海軍大臣	上院議員	ミラベッロ	Mirabello
文部大臣	右黨	フジサト	Fusinato
工部大臣	〃	ジャンブルコ	Jandurco
農工商大臣	左黨	ココジルク	Cocco-Orta
逓信大臣	〃	シヤンツェル	Schamse

而シテ議會ハ六月十二日開リ以テ議會ニ至ルベク豫算
ニ付議及緊要ナル南部鐵道問題ニ就テ議ス
シタル後ヲ待ツテ夏季休暇ニ就クベシト云ヘリ
柳前内閣總理大臣ソシニノ氏カ少數ノ左黨員
ヲ率テ内閣ヲ倒スルヤ僥ニ極テ兎兎中ノ社會黨

抄

議自廿七名ノ後接ト共和黨及急進黨ノ議欠
若干ノ應接ト依リテ其内閣ノ運命ヲ維持シ来
タルニ事ハ初旬社會黨議員ニ三名ハ労働者
組合ト意見一致ヲ成サタル由リ何レモ辭表ヲ提出シ
テ議院ヲ離ルル事ヲ決メ俄然ソシノ内閣ヲ倒シテ
其支障ヲ失フニ至ラシメタリ斯リテ議會員會ニ多
數ヲ制スルノ望他ヘタル際端ナリモ南部鐵道收納
ニ關スル問題ニ政府ヲ倒シテ一敗亦立ツ能ハサル至ラシ
メタリ元來伊國鐵道ハ全部國有ナリシカ千八百
ノ五十年時ノ政府ハ鐵道全部ヲ三分シテ其ノ徑
當リ私家社ニ貸與シタリシカ廿七ノ期限到着セシ
ヲ以テ昨午來アトソヤチツリ鐵道及地中海鐵道ハ
之ヲ政府ノ手ニ收納シテシタルモナリテナル鐵道未ダ

其運主と云ふ而シテ政府多事平金会社ノ運管及没
備対シ今日之ヲ收納スルニ関シテ適當ノ賠償ヲ
與フル為特法案ヲ議會ニ提出シ置キタルモ附托セ
ラレタル特別委員之ニ對スル報告ヲ急リ漫然該
法案ヲ擧議セルカノ感アリシ故政府其報告則
シテ定セントシ議會ヲ議院ニ為シタルニ反對黨ハ好概
スベカストナリ直ニ裁決問題トナシ社会黨員不在
ノ虛ニ乘リ遂ニ政府ヲシテ廿六票ノ少數ニテ倒ル
ニ至ラシメタリ
ソシニロー氏ノ辭職ニ決スルヤ皇帝直ニジヨリツチ氏
ヲ招カリ内閣但職ノ内命ヲ傳ヘラレ氏ハ爾來幾多ノ
政支ト交渉シテ重ニ種々ノ困難ヲ擲シテ漸ク内閣
ヲ作成スルニ至リタルモ右黨首領ハ内閣ヲ助ケサ

サルヲ義表シタレハ内閣ニ三名ノ右黨大臣ヲ有スルモ其
右黨ヨリ得ル勢力蓋シ甚カバシ
加之ジヨリツチ氏ハ極力黨對シテ元來過激ノ態度ヲ採
リ来リ其勢力ヲ擴張セシムル企テスルヲ數々アリシヨリ
彼等ノ怨望多ク其レ極力黨ヲ脱百名余ノ議員ハ
現内閣攻撃ニ全力ヲ集注スルナベシ其内閣ハ議
院於テ多數ヲ得ル見込確カセサルモ其總理及
外務大臣ハ宮廷ニ信用尤深ク從ツテ議會ヲ解散
シ得ルノ威カヲ有ス殊ニ現議會ハ僅ニ半歲間ニ四
回内閣ヲ傾倒シタル事ヨリ惡黨議會ハ殆ド得ル
國一版ヲシテ議會ノ動作ニ決シ念ヲ抱クニ至リシ
除ナレバ若シ依然議會ノ態度内閣ノ施政ヲ妨害
スル如キアラバジヨリツチ氏ハ解散ヲ奏請スルハ陛下

市裁可スベシ政府反対者モ已ニ民間派力シ
 知ルガ故ニルデー及ソシノ一反對派首領ニ政府
 及対スル投票ハ之ヲ避クルニ内決シ正面攻撃手ニ之ヲ
 為サルノ方針ヲ取ルモノ如シ
 要之勢内閣ノ勢力ト其壽命ト就テ議院開会ノ
 曉ニ至ラセハホタ俄ニ断言スルヲ得ザルモ其ノ身將來
 ニ就テ多大ノ希望ヲ傷セサルモノ如シ
 右及報告表敬具

在伊

明治三十九年四月三十日 特命權任大山岡

外務大臣子爵林董殿

明治三十九年七月二十五日 受

警務局

山

伊國の

公第五拾号

伊田松平氏ノ被令ニ於ル政調表
ニ関スル報告書

受第三七三三 瑞

伊田松平氏ハ被令ヲ奉リ本月十日ヨリ招集シ松平
 リヨリハ同日ヨリ政調表表ヲ其大要ハ一南
 部地方救済案ニ中野鉄道田有買上案ニシリ
 於ル鉄道敷設 四シリニ於ル硫黄採掘案ノ保
 護 五由軍不眠案ノ件取調ノ五原ノ重要案トシテ
 夏期休業前ニ被令ヲ求メテ由軍向敷ニ関シテ由
 軍方至リテ件調査案ノ要求ニ応ジ六ヶノ由
 軍方被令案ヲ提出スル約シ更ニ南部地方ノ救
 済案トシテ被令中ヨリ二項ノ案欠ヲ提出ハシリ
 地方
 於此地主小作人間ノ契約状況ヲ精査セシメ他ハ

地方ノ鑑察上ノ要況ヲ視察セシメシト相違ニ 陸軍
 三周シテ夏期休業前ニ 巡査討伐ノ全暇ナキヲ以テ
 六月末迄ニ戦ヲセシメ以外ノ陸軍ハ 末七月ヨリ秋合計
 年以必要ニ 応スルメ六月及有効ノ陸軍陸軍トシテ
 協賛ヲ求メ更ニ十月迄ノ戦合ニ之ヲ継続討伐ヲ希
 望シ (在東亞伊由ハ使館昇格ノ陸軍増額ハ年
 額老一カリナリ) 此レ伊由外交ノ状態ニ 関シテ左
 如ク述ベリ
 一 中東ハ忠実ニ 信託見ヨ盟面ハ 各友邦由ノ際ニ
 於テ交情 純正ニ 健康的ニ 特ニ 交誼ヲ重シキル
 友邦由間トナ情ニ 両々相俟テ平和ノ保障多シ
 斯多沙合ハ 太波湖ニ 列シ 二百六十五里列九ナ 雲即百
 六十五里ノ多叙ヲ以テ政府ニ 信任ヲ表ス

太外交廣設ニ 自ラハ 俄國駐在ハ 大伴ニ 於テ三周日盟
 ノ 甘多横益強固ニ 入リ 陸軍ニ 是ニ 表シタル
 太乃物告 ね具
 明治三十九年五月十五日

在伊 特領全權公使 大山 綱介

外務大臣子爵 林 董

正 尹 國

日 本 公 使 館

3
8.1

第3門

昭和二十九年十月十五日 菅政務

公第七九号

伊國內閣員、現況

去月末日内閣総理大臣ヲ始メ避暑中者有大臣ハ羅馬府ニ来集シテ臨時閣議ヲ開キタルハ新聞紙ニ種々ノ臆説ヲ流布スルニ至リシカ今午閣議ノ真相ニ付トモツル処ヲ聞クニ現内閣ハ次則ノ議会对ニ方針ヲ確定スル目的ヲ以テ召集タルモノナリ前内閣以来ノ連続連続諸問題ヲ解決スルニ今時ニ現内閣力抱括スル政策ヲ実行セントスルナリ則ジヨリツチ総理大臣力提来ノ政綱トスル処公務ノ改善普通消費税ノ減額及税法改革等ノ諸問題ニ

昭和二十九年十月十五日 菅政務

日本公使館

菅政務

菅政務

公務改善、鉄道交通機關ノ進捗、貨車ノ増
加、電信電話郵便ノ改良、司法事務及司法官吏
ノ改善、及教育事業、教師及公使館領事館等
ノ吏員ノ実ニテ較著ナル改革ヲ新行セントスルヤリ
次ニ消費物ノ課税削減是ナリ、伊國ノ賦課ハ今ヤ
其極矣、達スルモノト云ハサル可ク、而シテ現内閣ハ漸
々國民ノ負担ヲ輕カシムルノ方針ニ出テ先ツ消費
物ノ課税ノ削減セントス、此減税ハ一時國家ノ收入
ニ減損ヲ来スナラシモ消費増加ノ見込アリハ減税額
ヲ回復スルヲ得ベシ

金庫大臣ハ頃日一週章ヲ各省ニ發シ本年前半
期ノ假豫算ノ関シ目下急需欠リ可ラサル費目ノ
他限リニ特事業ノ関シ出費ヲ爲サルノ注意ヲ
爲シ將來ラントスル減税事業ヨリ惹起スヘキ
一時ノ歳入減少ニ抵抗スルノ余裕ヲ得ンノ希望ヲ
發表シタリ

右ノ具報候教具

明治三十九年九月十日

在任

臨時代理公使日下部



外務大臣侯爵西園寺公望殿

44
1

四十年五月廿二日 記録係 左 尹 國

外務大臣子爵林董、

臨時代理大使日下部三九

伊予司馬方臣更迭ノ関スル件
伊予司馬方臣ハ此ハ病死スルヲ以テ
陛下ハ本月十日ヲ以テ前ニザラリタ
部大臣ニシテ、大ニ教授ナルシト
又及報告スル
明治四十年三月二十日

分書第七号

受第六四二四號

明治四十年四月廿九日 陸軍 主務 政務司

伊予

右 係 國

日本公使館

日本信會

主管 政務司

4

関三件
川四八七

12

明弘治四年四月辛丑

在作

臨時代理大使 下部三九

王明賢印

外務大臣 齋藤實

四十年來

日本書

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

第3門

古

新

取調

會計

人事

通商

政務

次官

大臣

No.

小村外務大臣

林 大使

選票第一六号選舉期日ハ取り敢て
風評ノ儘報告ニ置キタルカ右ハ昨日
官報ニテ三月七日投票十四日決
選投票ヲ為シ新議會ヲ六月二十
四日ニ開ク旨公布セリ尚同電報前
段六月ハ十一月ノ誤リ

第3門

古

大臣

次官

通商

人事

會計

取調

選票第一六号選舉期日ハ取り敢て
風評ノ儘報告ニ置キタルカ右ハ昨日
官報ニテ三月七日投票十四日決
選投票ヲ為シ新議會ヲ六月二十
四日ニ開ク旨公布セリ尚同電報前
段六月ハ十一月ノ誤リ

第3門

車

會

人

産

産

大官

大臣

議院に於ける議員の選出は、
自由、進歩、保守、各派の議員が、
各々其の勢力を發揮し、
議院の中心を占め、
政府の政策を決定するものなり。

議員の選出は、
自由、進歩、保守、各派の議員が、
各々其の勢力を發揮し、
議院の中心を占め、
政府の政策を決定するものなり。

ハニ
時

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

報告

外務大臣

林 全権大使

羅馬農三月十日午後七時
東京着ハ十一日午後二時五分

第22号
下院総選挙ハ來ハ十四日ノ決選投票

ノ畢ン近ハ正確ニ其ノ結果ヲ知ルヲ得サルモ
政府党ノ大多数ナリトハ確實ナリ右ニ拘ハ
ラス内閣二三大臣ノ椅子ニ變動アルハシト傳
ヘラン

新
ハニニハニハニ

第3門

第3門

立

公第ニ九第
明治四十二年二月十日

明治四十二年三月十一日接受

主官 政務局

受第 四四三八

第二課

高

在任

特全権大使男爵林權助

外務大臣伯爵小村壽太郎殿

任國議會解散ノ旨ニ報告件

任國議會ニ議案解散ノ旨第ハ本月ハ九日
電第一六及一七號ヲ以テ報告申達置候通リ
其解散ノ表面上ノ理由ハ兎ニ角其眞實想ヲ認ム
キハ昨午本院ニ於テハ「バルカン」問題ニ関シ議論

本館
 講義、當時外相ケトリー氏ハ併諸大學ノ模範
 設置スル事ヲ議シテ、事ハ同國ノ内政ニ關シ、
 他國ノ容喙ヲ許サルモ、常ニ同國當路者ノ意向ヲ
 探リタルニ、併國民ハ此際忍耐シテ事ヲ成行シ候ッ
 テ、此ヨリ併國民ハ此際忍耐シテ事ヲ成行シ候ッ
 ベシト警告シ、併國民モ亦即ニ其目的ヲ達シ得ル
 ノ目ヲ翹望シ居リタリシ、客日、模範國政府ガ其議會
 提出セル法案ニ、在大學ニ併國民ノ希望セル模
 範國ハ併諸ノ中心タルトシ、エトニ設ケスレテ、
 設立スルコト及該入學生ハ全然獨語ヲ解
 スルヲ要スルトノ二條件ニ、痛ク併國民ノ感情ヲ
 害シ、本月十日ヨリ、同會ヲ召集シ、當國議會
 ニ激烈ナル論戰ヲ見シ、たベシト上下一般ノ認

心所トリ、數日前、外相會議ニ於テ、外相ケトリー氏
 ハ盛ニ議會解散說ヲ主張シタル由リシガ、終ニ今
 國右解散ヲ遂行シ、以テ三國同盟就中、増平
 關係ノ危機ヲ避ケタルモノナリト一般ニ認メ、居候
 然レモ、表面上右解散奏請文ノ理由トモ、毎ク見
 大要右ノ如クニ有之候
 併國憲法第三十三條ニ、議會ハ先由總選舉
 後滿五年即本年十一月十三日ニ其任務ヲ終リ、一
 ヲ終ナリ、此期限ト現時ト同ニ、於テ議會ヲ解散シ
 新議會ヲ召集スルハ、最好時機ヲ講究スルニ當リ
 政府ニ一面ニ已ニ國存ニ於テ、極度準備ノ為
 ニ人心動搖シテアリテ、之ヲ其終ニ放任スル時ハ、國
 ノ治安ヲ害スル怖アルヲ視タルト、他方ハ、南部震

災、勝シ奉國一被救済、迄事セ、國民ノ同情
 リ利用シ可成進シテ一被救済シ、國ヲシントスルニ些
 々タル地方ノ小々闘争、雖ケシノ國家大局ノ利害注
 目セシムルハ、今回ヲ以テ尤モ好機ト認ム、且又「イスター」
 ノ休暇前、豫算全額ヲ議シ、ムコト困難ナラ
 以テ右休暇後ノ議會解散、引テ政府ヲシテ新
 會計年度ヲ、仮豫算執行ノ已ハキニ至ラシメ
 國家ノ進運ヲ害スル怖アリ、此ニ及シ三月半、新議
 會ヲ召集セ、「イスター」ノ休暇前、議會ヲ成立セ
 シメ四月後ニ裕、國民ノ新意見ヲ聞キ得、便
 宜アリ以上ノ理由ニテ、新議會ヲ解散シ三月七
 日ニ新選奉國十四日ニ改選投票ヲ奉行セシムル
 シ、之、有ニ候

右及報告候敬具

日本大傳

主管政務局

第二課

津

公第二碑

明治四十二年二月十八日

在保

特原全權大使男爵林權

外務大臣村壽太郎殿

保國圖志五十年間旅台佳景榮盛
報告一併

伊國政府各大臣が連署シテ議會ノ解散ヲ
奏請セル文。附屬シテ曰議會ノ常軌ヲ整
叙セシ
記事存ニ在リ伊國過去五年間ノ進歩ノ活
歴

孝

外

空戰



七十五

福井県立総合資料館蔵

在傍國
史ト認メ得ヘキ付其大要ヲ在・摘譯シタ具報
候敬具

第二十議層ノ志事案

前田協定案前ヨリ繼續ニ鉄道問題付新
議層ニ万三千百キロメートルノ鉄道建設權國家
ニ與ヘテ必要ノ費目九億一千萬利・支出・協賛
ヲ與ヘテ其結果鉄道運輸ノ旅客及貨物ハ
益々増加セリ

經濟界ノ状況進歩

税付五分利付公債ヲ無税三分七五利付公債・
借換一途・十九百十二年ヨリ之ヲ三分五厘・低減借換
ヲ成印セシハ利率ト出來事ナリ即チ公債額八十五億
利・對シ國庫ハ其利ヲ支拂ノ爲メ・益々毎年

額ニ千万利・シテ・是・十九百十二年一月一日ヨリ
同額ノ利益ヲ加フベシ

右公債借換後セ得セ公債價格ハ常・平價以上
係チ其國家信用ノ強固ナル結果金利モ常・低
減セリ

財政界・於テハ石油減ノ事減及保露通商条約
ノ結果同國ヨリ輸入タル石油税ノ近キ將來・於テ
益々輕減スルコト・郵便税ノ低減・電話ノ國有
制度実行・三紙幣發行銀行法改正ノ結果
其割引及貸金印紙税ノ低減・及チ府縣ノ地
方税支弁額シ國庫支弁・移シタル如キハ其政
良ノ著シキ者ナリ

國防

國防就其政府、提議、基、議會、國防調查
委員ヲ設ケ討議中ナリ、其提議、一、防衛、二、法
律、三、経済、及法律、四、シ、モ、アリ、同、後
来右調査、完結、ヲ俟、夫、劃策、を、為、ス、ベシ

収入、増加

國家財政、(國)民經濟、及、數、シ、テ、常、其
收入、支出、超過、セリ、千九百一十九年、豫
算、千九百一十九年、豫算、千九百一十九年、豫
算、收入、於、二億、千四百、萬、利、ヲ、増加、セリ、而、シ、テ、此
豫算、收入、豫算、中、に、動產、收入、稅、中、五、分、利、有
公債、利、子、充當、ス、ヘキ、八、千、萬、利、ヲ、計、上、ス、ル
(勿論、五、分、中、に、計、上、シ、且、シ、公債、借、換、成、印、信
果、ナリ) 鐵道、收入、計、算、中、二、千、一、百、萬、利、ヲ、減、セリ

是、レ、千九百一十九年後、に、鐵道、利益、代、ス、ル、純

益、ヲ、組、入、ル、コト、ナ、シ、タル、由、リ、尙、余、麵粉、パン、類
、消費、稅、ヲ、全、廢、シ、石、油、稅、ヲ、半、減、シ、尙、余、商、賣
、物、の、改、正、結果、輸入、稅、減、少、セ、ル、多、ク、又、國
、内、の、產、收、獲、良、好、結果、小、麦、輸入、稅、減、シ、其、輸
、入、稅、額、又、減、少、セ、リ、尙、余、部、地方、及、其、他、地方
、土地、丈量、改良、結果、地、稅、二、千、萬、利、ヲ、減、セ、リ、此、
、如、ク、收入、減、少、セ、ル、項、目、多、キ、拘、ハ、ラ、ズ、其、餘、入、額、ヲ
、増加、セ、ル、ハ、喜、ム、ベキ、現象、ナリ

此、如、キ、收入、増加、ハ、專、賣、稅、於、八、千、三、百、萬、製造
、稅、五、千、七、百、萬、營業、稅、四、千、七、百、萬、部、產、稅、三、千、
、三、百、萬、電、信、三、千、二、百、萬、送、稅、十、二、百、萬、鐵、道、通
、行、稅、九、百、萬、及、其、他、小、稅、丈、増加、セ、ル、ニ、シ、テ

伊勢武蔵
照會書

在俄國

日本銀行
日清銀行
日華銀行
日滿銀行
日蒙銀行
日印銀行
日緬銀行
日暹銀行
日安南銀行
日爪哇銀行
日荷屬東印度銀行
日南洋羣島銀行
日太平洋羣島銀行
日美洲羣島銀行
日歐洲羣島銀行
日非洲羣島銀行
日澳洲羣島銀行
日南美洲羣島銀行
日北美洲羣島銀行
日南亞細亞羣島銀行
日東亞細亞羣島銀行
日南亞細亞羣島銀行
日東亞細亞羣島銀行

加ナリ、日本銀行、三銀幣、銀行、正金
準備五億七千九百萬、十四億五千萬、上、其
丹、十億七千九百萬、八億七千九百萬
万、標準準備増加シテ、金準備、増加七億七千四
百萬ナリ

其他、經濟進歩、良好ニ顯著、ナリ、一九二一年、十
九百一年、シテ、國家公債、利子、シテ、外國、主權
ヒタル、年額、七千九百萬、北元、金、ナリ、億、相當、然、シ
ナリ、一九二一年、十、九百、年、シテ、外國、利子、主權
二千七百萬、北元、金、七億、二千、萬、相當、シ、結局、十、
億、八千、萬、公債、シテ、外國、ヨリ、買戻、シタル、ナリ

外交及防備

外國ト友誼ヲ厚クシ、同盟國ニ忠實ナル、保國

外交、方針ナリ、今後、高、北、方針、ヲ、持續、シ、平和
、永續、ヲ、期、シ、在、此、北、方、向、時、陸、海、軍、防
備、ヲ、免、ル、可、カ、ス、何、ト、モ、是、ノ、案、ニ、平和、持續、ノ
唯一、手段、ナル、ヲ、英、經濟、ヲ、促進、セ、シ、最、良、ノ、手
段、ナリ、(北、方、向、備、擴、張、ヲ、結、局、シ、前、回、ノ、解
散、奏、請、文、中、ニ、之、ヲ、カ、リ、シ、モ、今、回、始、メ、之、ヲ、排
入、セ、リ、ト、ナ、ル、)

日本銀行

日清銀行
日華銀行
日滿銀行
日蒙銀行
日印銀行
日緬銀行
日暹銀行
日安南銀行
日爪哇銀行
日荷屬東印度銀行
日南洋羣島銀行
日太平洋羣島銀行
日美洲羣島銀行
日歐洲羣島銀行
日非洲羣島銀行
日澳洲羣島銀行
日南美洲羣島銀行
日北美洲羣島銀行
日南亞細亞羣島銀行
日東亞細亞羣島銀行

日 日
亥 亥
九 九
侯 侯
舍 舍

文憲
長檢印

明治四十一年三月二十六日接受 2

明治四十二年三月二十一日起算
同 年 月 二十一日發清

政務局具

1954年10月

主 任

休

送第一凡五號

桂苑ノ五
少村おや五

伊豆山と云々万に二二五

録
ニ
類
ノ
所
載
ハ
凡
般
論
議
ヲ
解
ス

四三六暗

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

取調

報告

第六一號

小村外務大臣

林全權大使

羅馬發 四十二年十二月十一日 午後六時
東京著 十二月十五日

伊國内閣ノ後繼ハ三年前ニ首相タリシソニ男
ニテハ議會ノ勝算覺東ナキニ付他黨ノ人ヲ入レ
ントシタルモ政見齟齬シ非常ノ困難ノ末漸クナ
一日内閣出来上カレリ重ナル閣員ハ外務グイッ
チヨルジニ伯農商務ニガツチ氏海軍ニバトロ氏
ナリ現内閣ハ更ニ鐵道省及労働省ヲ新設ノ計

七

22

辭

單

會

人

餘

の

大

大

ナリ野内閣ノ更ニ鐵道及郵政海陸交通ノ
ナリシコト海陸交通ノ更ニ鐵道及郵政海陸交通ノ
一日内閣ノ更ニ鐵道及郵政海陸交通ノ
ノトシタムコト海陸交通ノ更ニ鐵道及郵政海陸交通ノ
ニテハ鐵道及郵政海陸交通ノ更ニ鐵道及郵政海陸交通ノ
ナリ大命ノ更ニ鐵道及郵政海陸交通ノ
外國ノ更ニ鐵道及郵政海陸交通ノ
鐵道及郵政海陸交通ノ更ニ鐵道及郵政海陸交通ノ

東京鐵道
四十二年四月十四日
東京鐵道
四十二年四月十四日

畫ナル趣アリ内閣ノ後援タル政黨ノ基礎充分
ナラス其永持ハ疑問ナラント噂セラル